

I 調査結果概要

県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、厳しい状況ではあるが、製造業を中心に持ち直しの動きが続いている。

先行きについては改善の動きがみられる。

- 経営者の景況感D Iは、▲57.8と、前期比で3.3ポイント増加し、4期連続で改善した。業種別では、製造業は3期連続で改善し、非製造業は2期ぶりに改善した。
- 景況感の先行きD Iは▲23.0と、前回調査比で1.2ポイント減少し、4期ぶりに悪化した。
- 売上げD I、資金繰りD I及び採算D Iは2期ぶりに改善した。
- 設備投資の実施率は19.3%で、前期と同水準となった。
- 来期については、売上げD I、採算D Iは当期D Iより改善し、資金繰りD Iは当期D Iより悪化する見通しである。また、設備投資の実施率については当期実施率より減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、D Iを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：令和3年1～3月期、「当期」：令和3年4～6月期、「来期(先行き)」：令和3年7～9月期

1 経営者の景況感と来期の見通しについて

自社業界の景況感D Iは▲57.8となり、4期連続で改善した。前期比で3.3ポイント増加し、前年同期比では21.3ポイント増加した。

業種別にみると、製造業(▲54.9)は3期連続で改善し、非製造業(▲60.0)は2期ぶりに改善した。

<景況感D Iの推移>

	当 期 (R3.4-6)	前 期 (R3.1-3)	前年同期 (R2.4-6)
全 体	▲57.8	▲61.1	▲79.1
製 造 業	▲54.9	▲59.2	▲79.8
非製造業	▲60.0	▲62.6	▲78.5

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は7.5%（前回調査(R3.1-3月)比▲1.6）、「悪い方向に向かう」とみる企業は30.6%（前回調査比▲0.4）だった。

先行きD Iは▲23.0（前回調査比▲1.2）と、4期ぶりに悪化した。

<来期の見通し>

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きD I (R3.7-9)
全 体	7.5%	30.6%	▲23.0
製 造 業	9.5%	27.5%	▲18.0
非製造業	6.1%	32.9%	▲26.9

2 売上げについて

売上げD Iは▲31.6（前期比+14.1）となり、2期ぶりに改善した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより改善する見通しである。

〈売上げD Iの推移〉

	当 期 (R3.4-6)	前 期 (R3.1-3)	前年同期 (R2.4-6)	来期見通し (R3.7-9)
全 体	▲31.6	▲45.7	▲74.2	▲23.2
製 造 業	▲23.2	▲36.0	▲73.7	▲15.9
非製造業	▲38.0	▲52.9	▲74.5	▲28.8

3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲25.8（前期比+7.1）となり、2期ぶりに改善した。来期は悪化する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りD Iより悪化する見通しである。

〈資金繰りD Iの推移〉

	当 期 (R3.4-6)	前 期 (R3.1-3)	前年同期 (R2.4-6)	来期見通し (R3.7-9)
全 体	▲25.8	▲32.8	▲58.9	▲26.4
製 造 業	▲21.2	▲26.7	▲58.4	▲21.5
非製造業	▲29.3	▲37.4	▲59.2	▲30.1

4 採算について

採算D Iは▲36.1（前期比+9.1）となり、2期ぶりに改善した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iより改善する見通しである。

〈採算D Iの推移〉

	当 期 (R3.4-6)	前 期 (R3.1-3)	前年同期 (R2.4-6)	来期見通し (R3.7-9)
全 体	▲36.1	▲45.2	▲70.4	▲30.6
製 造 業	▲29.5	▲37.2	▲68.9	▲25.2
非製造業	▲41.2	▲51.1	▲71.6	▲34.8

5 設備投資について

実施率は19.3%となり、前期と同水準となった。来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業は4期連続で増加し、非製造業は2期連続で減少した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の実施率より減少する見通しである。

〈設備投資の実施率〉

	当 期 (R3. 4-6)	前 期 (R3. 1-3)	前年同期 (R2. 4-6)	来期見通し (R3. 7-9)
全 体	19.3%	19.3%	15.7%	18.5%
製 造 業	22.8%	22.7%	17.1%	22.4%
非製造業	16.6%	16.7%	14.6%	15.4%

6 ヒアリング調査の概況（詳しくはP14以降を御覧ください）

【現在の景況感】

- （一般機械器具）・半導体関連の受注が増加しており、景況感は良好である。
- （輸送用機械器具）・半導体不足による自動車の生産量減少の影響が出てきている。
- （金属製品）・自動車、産業機械の回復が不十分である。
- （プラスチック製品）・医療関連、食料品関連は好調である。
- （百貨店）・小規模店やサテライトショップの閉店が続いている。
- （スーパー）・食品スーパーは単籠もり需要が堅調で好況である。
- （旅行業）・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置があり、厳しい状況が続いている。
- （建設業）・感染症の影響で都内からの人口流入が増えており、商談は好調に推移している。

【売上げ・採算】

- （一般機械器具）・半導体関連の受注が好調であり、売上高は増加した。
- （輸送用機械器具）・自動車関連の受注が増加し、売上高は増加した。
- （電気機械器具）・半導体関連が好調で売上高が増加し、採算性は良くなった。
- （金属製品）・鋼材価格を中心に原材料費が上昇し、採算性が悪化した。
- （情報サービス業）・民間企業のIT設備投資の需要は継続しており、前年同期比で売上高は増えた。
- （建設業）・販売価格の上昇によりコスト増加分を吸収出来たため、採算性も良くなった。

【今後の見通し】

- （一般機械器具）・半導体製造装置向けの受注は年末まで好調維持見込である。
- （輸送用機械器具）・半導体不足による自動車の生産台数調整が予想されるため、どちらともいえない。
- （食料品製造）・昨年は感染症による単籠もり特需があったため、前年比で売上高は減少する見通し。
- （印刷業）・客先の一部で受注の動きが活発化しているが、依然受注量は芳しくない。
- （百貨店）・感染症の収束次第のため、どちらともいえない。
- （商店街）・感染症次第であり、どちらともいえない。オリンピック景気も期待できない。
- （旅行業）・感染症の状況とオリンピックの開催可否で大きく変わるため、どちらともいえない。